

## 在日米海軍司令官祝辞

増田会長、御紹介頂きまして有難うございます。若宮防衛大臣政務官、鮎田海将、武居海将、沼田副市長、ご来賓の皆様、今日は、本日ここで記念艦三笠に象徴される（日本海戦勝利）をお祝いできます事はこの上ない光栄です。

周りを見回し、この神聖な甲板を歩けば、100年以上前に三笠で任務に就く事の有難みをご理解頂けるかもかも知れません。

三笠、繁栄と将来の幸福、そして自由国家としての存在を脅かす最も深刻な脅威に日本が立ち向かうために召集された連合艦隊の旗艦でした。

日本をはじめ、国の経済を海洋への自由なアクセスに依存する国にとって、妨げられる事のない海上通商路へのアクセスは国家繁栄の要となっています。

1904年、日本は航海の自由を守ることを選択しました。その結果、ネルソン提督による1805年のトラファール海戦での勝利以来、最も重大な決戦と称された一連の戦いで勝利を収める事となったのです。

多くの人々が惨敗を予想する中、東郷元帥率いる戦艦三笠、連合艦隊はこの戦いで勝利を収めました。荒波の対馬近海での勝利により戦争は終結、日本は国家として存続する事が保障されたのです。

対馬での戦いから109年、様々な出来事が起こりましたが、これは海洋貿易を保護する為、国家が然るべき海軍力を保持する必要性を何度も証明する事になったのです。海軍力がなければ日本は、その通商を乱用し、海洋権利の侵害を試みる何者かに翻弄される事になっていたでしょう。

米海軍は日本の船舶の安全を守る為、海上自衛隊と手を携え協力できる事を誇りに思います。日米は共に日本近海の安全確保に努めていますが、私達はそれ以上に多くの事を成し遂げています。海上自衛隊と米海軍は西太平洋の平和安定を維持する上で必要不可欠である主要な貢献国で、長年に亘り訓練や作戦をともに実施する事で日米は世界のどの国よりも緊密な相互協力関係を築いてきました。

海上自衛隊そして米海軍にとって、東郷元帥ならびに三笠は非常に印象深い存在です。三笠を保存し、艦が後世残すべく教訓をより効率的に伝えていく為の三笠保存会の継続的な取組は、海軍の準備態勢、海洋の繁栄、そしてその繁栄維持に寄与する有能な海軍力を保持する必要性を伝えていくうえでかけがえのないものです。

有名な海軍戦略研究者アルフレッド・セイヤー・マハン海軍少将がかつてこう述べています。

「通商の保護こそが、海軍の存在意義なのだ」

三笠保存会により極めて良好な状態で保存されてきた戦艦三笠、その美しい姿は私達に艦の偉業を再認識させてくれています。